





# 大学での栄光を胸に 新たな舞台へ 旅立つアスリート

スポーツの強豪校として数々の名選手を輩出してきた筑波大から、今春も多くのアスリートが新たな舞台へと旅立つ。その中でも大きな活躍を見せた5人に、大学での競技生活や今後の展望を聞いた。

## 考える野球 プロにつなげる

野球

佐藤隼輔(体専4年)



団からも注目を集めた。だが高校卒業後は、大学の道を志した。「プロが大学が悩んだが、プロで活躍できる自信がなく、大学卒業後のドラフト1位指名を目標に、進学を決めた」と当時を振り返る。

最速150km/hのストリークと、制球の良さを生かしたスライダー、チェンジアップを武器に、エースとしてチームを支えた。昨年10月のプロ野球新人選手選択(ドラフト)会議では、埼玉西武ライオンズから2位指名を受けた。

プロ入りを意識し始めたのは高校3年生の4月。宮城県の地区大会に出場した時。試合には敗れたものの、甲子園の常連校、仙台育英高を相手に9奪三振を記録するなど好投し、各球

ラート競技 萩原沙里菜(体専4年)



ラートは、二つの大きな鉄製の輪を平行につないだ器具だ。競技では、このラートを自在に操り、パフォー

ランスを披露する。ラートを床に垂直に転がす直転斜めに動かす斜転、選手がラートに飛び乗り、そこから技を繰り出して着地する

跳躍の3種目で競う。その中でも、特に跳躍を得意としてきた。昨年8月の全日本学生選手権(インカレ)では、ラートの上からの前方宙返り跳びを披露して優勝。直転、斜転でも優勝し、女子個人総合と合わせて4冠を達成した。

ラートを始めたのは筑波大に進める。考えながらラートを始める。考えながらラートを始める。考えながらラートを始める。

## 東京パラに懸けた6年間

パラカヌー

瀨立モニカ(体専4年)



ピックに備えて18年夏に休学、20年4月に復学した。東京パラでベストを尽くすことだけを考えた6年間だったという。

スタート時の強いこぎ出しが持ち味だ。ベンチプレスで80kgを持ち上げる腕力を生かし、パドルの素早い動きを推進力に変える。

筑波大に入学したのは2016年。東京パラリン

大に入学後。高校までは、ゆかや平均台など体操競技を専門としていた。大学でもスポーツに関する研究がしたいと筑波大進学を意識し、高校2年時の夏に大学説明会に参加した。その時

体操部によるラートの演技を初めて見た。乗しようにラートを操る選手の姿に強く引かれたと思ったという。そこで、入学後は体操競技部ではなく、ラートができる体操部に入部した。

だが、1年時の11月、跳躍の練習中に落下し、腰の骨を折る大けがをした。「始めたばかりだったが、もうやりたくないと思っただけで、練習を振り返る。半年ほど跳躍から離れ

## 大学から始めたラートで世界へ

ラートは、二つの大きな鉄製の輪を平行につないだ器具だ。競技では、このラートを自在に操り、パフォー

ランスを披露する。ラートを床に垂直に転がす直転斜めに動かす斜転、選手がラートに飛び乗り、そこから技を繰り出して着地する



2年時の全日本ラート競技選手権で跳躍を披露する萩原

以上タイムを縮めるも、周囲の選手のレベルも上がっており、7位に終わった。パリ大会でのメダル獲得に向け、卒業後も現役を続けるが、医師になる夢をかなえるため、医学部の受験勉強も進めていく。新たな挑戦は始まったばかりだ。(写真は本人提供)

## 昨季はJ1でも活躍

サッカー

山原侑音(体専4年)



は、J1清水エスパルスに張って戦うことに助かった。2022シーズンの加入が内定した。同時にクラブの特別指定選手に登録された。

4年時には実際に清水エスパルスに合流し、昨年9月にはJ1デビュー。同日27日の浦和レッズ戦はJ1残留にかかわる試合だったが、プロ初アシストでチームの勝利に貢献した。

一方、筑波大では副将としてチームを率いた。時には厳しい声も掛けてチームを引き締めつつ、試合中は自身が誰よりも走り、体を

めきと実力を伸ばした。中学2年時に膝をけがして4カ月休んだが、フィジカルを鍛えてけがをしにくい体を作った。高校2年時の全日本学生選手権(インカレ)でベスト4に進出した。



4年時の全日本学生選手権でプレーをする田形=全日本学生テニス連盟提供

4年間チームに貢献 田形諒平(体専4年) テニス 田形諒平(体専4年) テニス 田形諒平(体専4年) テニス

卒業後は、プロサッカー選手としての歩みだが、本格的に始まる。「現役引退まで常にピッチの上で長い時間戦えるようにしたい。まずは、今シーズンの全試合に先発出場できる選手に成長したい」と語る。

# 記者の声



細井真生

【一面参照】所属クラブのユニフォームを着た選手たちの笑顔がまぶしかった。

## 現役中から学べる機会を求められるリカレント教育

「一面参照」所属クラブのユニフォームを着た選手たちの笑顔がまぶしかった。サッカーのプロクラブ入団が決まった筑波大学蹴球部員たちの合同記者会見を、昨年末に取材した。特に印象に残ったのが、在学中のまま蹴球部を退部し、J1柏レイソルでプレーすることになった森海渡選手(体専3年)の発言だった。「4年生で教育実習をする手もあったが、決断を伝えると、在学中の免

許取得だったと知った。将来のキャリアを考えてのこと、就職科目の履修をほぼ終え、教育実習を残すのみだった。だが、4年時はプロ活動を優先することを決めたため、教育実習はできない見通し。家族に決断を伝えると、在学中の免

許取得は可能だ。だが、在学中に実習ができれば、学生アスリートとしてのキャリアを追求できる。アスリートとしてのキャリアを追求できる。アスリートとしてのキャリアを追求できる。

# 筑波時評

「変動する現代社会に不断に対応しつつ」多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する(傍点筆者)ことを、建学の理念に大きくうたった筑波大で最新の教育組織が、昨年4月に新入生を初めて迎えた総合学域群である。学生たちは、これまで新たに一般選抜で導入された総合選抜に合格して入学してきた。出願時に学類・専門学群を決める従来の方式とは大きく異なる、前期日程の募集人員のうち三割を、文系、理系I、II、本の高等教育史が教えるよう

## 「他人より遅く」学ぶ学生 領域交差の仕掛け人に

総合学域群

### 津崎良典 准教授(フランス哲学)



人文社会学系・准教授。パリ第一大バンテオン・ソルボンヌ校哲学科博士課程修了。哲学博士。2015年より現職。近著に「デカルト 魂の訓練」など。

「他人より遅く」学ぶ学生 領域交差の仕掛け人に 複数の専門領域の学修を通じて広い視野から様々な問題を多角的にとらえる力(筑波大入学案内2022)の養成を目指す総合学域群の出身者に、筑波大の建学の理念が美しくつらう「学際的な協働」にその力をもって参画することだけでなく、学際性を超越することが期待される。「総合」と

進む。門戸を叩く側も招き入れる側も「移行」には試行錯誤を強いられるだろう。しかしそれは、劣多くして功少なしでは必ずしもない。新たな価値は異なるものとの摩擦によってこそ生まれる。たとえれば、初年次を異なるリズムで過ごしてきた学生同士、そして学生と教員の出会い、各組織を活性化するための「他人より遅く」の意味を込めて、

# 反射鏡

## 筑波大に今欲しいもの・こと

コロナ下の筑波大では、丸善雄松堂が運営する書店の一部営業終了やニューヤマザキデイリーストアの閉店など、食堂・店舗の撤退が相次いだ。筑波大生は今、キャンパスに何を必要としているのだろうか。中央図書館前などで聞いた。(細井真生II人文学類2年、大橋翔和II比較文化学類1年、山田優芽II同2年、田中千裕II生物学類1年)

【心理P後期2年・男性】生協が欲しい。学上課程で在学していた大学の生協では、免許合宿やゼミ合宿が安い料金で手配できた。生協の学食では季節料理を手ごろな価格で食べられた。筑波大では書店や食堂が閉店し、不便利。生協の安い学食や品ぞろえ豊富な売店があれば利用したい。 【資源P2年・男性】丸善の売店の営業時間を長くしてほしい。午後7時から1時まで営業していると、研究室からの帰宅途中に立ち寄れる。最近は土日も研究室にいるため、週末の昼間も営業していると、昼食を買ったことができて便利だ。 【資源2年・女性】グループワークができるスペースが欲しい。図書館内にグループで利用できるスペースがあったが、コロナ禍で使えなくなった。授業の課題などでグループで話し合いが必要な場合、仕方なくファミレスや喫茶店を利用している。参考図書がすぐに借りられる図書館内で話し合いをした方がいい。 【国際2年・女性】一の矢学生宿舎の周辺に街灯を増やしてほしい。日没後は、明かりをつけないと見えない場所がある。道路の舗装状況も悪く、舗装が割れてきた隙間に自転車の車輪がはまったこともあった。 【構工ネP前期2年・男性】ほぼ毎日行く食堂や丸善など、大学内のお店で現金自動受払機(ATM)の対応金融機関を増やしてほしい。普段使っている銀行のATMは土浦市の自宅付近にしかなく、大学でお金を下ろすのが不便だ。 【比文1年・男性】陸上競技場の東側を通る陸上道路の陸橋脇にカーブミラーを設置してほしい。陸橋からカーブへ降りる細道を自転車で通るとき、陸橋の土台部分が横からの視界を完全に塞ぐため、カーブを通る自転車や歩行者とぶつかりやすくなったことが何度かある。



イラスト=大橋翔和(比較文化学類1年)

## 選択的夫婦別姓どう思う?

最高裁大法廷は昨年6月、民法の夫婦同姓規定は合憲だと判断した。だが、裁判官15人のうち4人は違憲との判断を示した。また、同9月の自民党総裁選や10月の衆議院議員選挙でも選択的夫婦別姓制度の導入が争点の一つになるなど、議論が活発になっている。筑波大生は選択的夫婦別姓制度をどう考えているのか。中央図書館前などで聞いた。(坂田利通II人文学類1年、寺尾優太II比較文化学類2年、山田優芽II同2年)

名前全体の意味が変わることもあるはずで、残念だ。しかし、日本で結婚するのなら、本意だが名字を変えたいと思う。手続きは大変だが、日本の慣習に従ったほうが生活しやすいと聞いたことがあるからだ。 【国公P前期1年・男性】賛成。名字について選択的支用することには意味がある。ただし、私の地元では、家業や財産の相続と並んで、〇〇家を守るために名字を残すという趣旨の話題が出ることもある。制度を変えることは、こうした名字の伝統と家の伝統を結びつける伝統的な考えを持つ人を説得する必要があるのではないかと。 【国公P前期1年・女性】反対。女性の社会進出を考えると夫婦別姓には賛成だ。しかし、子供からすれば家族で名字が違うと、家族への帰属意識に揺らぎが出てしまうのではないかと。 【国公P前期1年・女性】賛成。研究者の氏名は論文や発表などの研究業績とともに付いている。結婚や離婚で姓が変わると、業績の検索システムなどで別の人物と判定され、業績が少なくなってしまう。 【人文P前期1年・女性】賛成。母国のベトナムでは、結婚しても名字はそのままであることが多い。家族から受け継いだものを大事にするから。夫婦でも自分の名字を捨てることはできない。もし結婚相手

【国際2年・男性】賛成。同姓が別姓かを選明することで理解が得られるのではないかと。 【生物4年・女性】賛成。母国の中国では、夫婦同姓は一般的ではない。日本の制度を知って驚いた。名字が変わると、不安を取り除くような説明をすることで理解が得られるのではないかと。 【生物4年・女性】賛成。母国の中国では、夫婦同姓は一般的ではない。日本の制度を知って驚いた。名字が変わると、不安を取り除くような説明をすることで理解が得られるのではないかと。 【生物4年・女性】賛成。母国の中国では、夫婦同姓は一般的ではない。日本の制度を知って驚いた。名字が変わると、不安を取り除くような説明をすることで理解が得られるのではないかと。

# 真壁の街並み舞台

## 「あるさまわる」展開催

筑波大芸術学学位プログラム「現代美術演習」に参加した学生たちが成果を披露する美術展「あるさまわる」が、1月12〜30日まで茨城県桜川市の真壁地区で開かれた。同学位プログラムの学生7人が制作した8作品が真壁伝承館など地区内の6会場に展示された。

重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている。同展では、授業で学生が真壁の街を歩いて感じたり考えたことに基づき制作した作品が、地区内に分散して展示されている。油絵から未来の電子書籍をテーマに仮想現実(VR)を使った作品まで、さまざまな現代美術作品が並び、観覧者は学生と同じように街を歩きながら作品を巡る。

高橋呼春さん(芸術P前期1年)は真壁産の花こう岩「真壁石」を使用し、真壁石を切り出した各辺30センチ程の立方体を三つ横に並び、鋭く切り裂



高橋呼春さんの「真壁石」の作品。真壁石を切り出した各辺30センチ程の立方体を三つ横に並び、鋭く切り裂

かれたような傷が付いたら、その傷の断面に塗られた漆が黒く輝いている。「きれいに成形された真壁石を見て、自然に存在するものを人間が傷つけて、不自然なものにしていく」と感じた。その違和感を表現したかった」と高橋さんは話した。

同実行委員会の学生代表の柴田愛香さん(同一1年)は「作品を通して、私たちが街を歩いて考えたことを追体験してもらえたらうれしい。展示をきっかけに、筑波大生にはなじみが薄い真壁の街の魅力も気付いてほしい」と話した。

(寺尾優汰)比較文化学類2年、写真も)

ポップス曲の第2部、演奏会のメイン曲「シバの女王ベルキス」(オットリー・レスピーギ作曲)の第3部構成で、約400人の聴衆がメドレーを含む全11曲の演奏を、2時間半にわたって楽しんだ。

第1部はマーチ「ブルースカイ」(高木登古作曲)の迫力ある演奏で幕を開け、東日本大震災の復興支援のために作られた「陽はまた昇る」(フィリップ・スパーク作曲)など4曲を奏でた。

幅広い層に知られる曲をそろえた第2部では、ジャズ風にアレンジされた「ジングルベル」やテイズニーのメドレーなど4曲を演奏。サンタクロースやミッキーマウスの衣装を着た指揮者、ステージ照明のカラーフルなライトアップが会場を盛り上げた。

1楽章は木管楽器の軽やかなメロディーから始まり、トランペットのきらびやかなファンファーレが会場を包んだ。

指揮を務めた関根千夏さん(比文3年)は、「各個人の音と全体の音が合うようにまとめ上げるのに苦戦した。本番では、この曲の顔となる、第1楽章の木管楽器からトランペットの音色へ盛り上がる部分で、とても良い音を響かせられた。終演後に振り返ってあ

いさつをした時に、お客さんの満足そうな顔を見ることができた」と話した。

アンコールの「故郷の空 in Swing」(福田洋介編曲)では、この演奏会で引退する団員33人が独奏や楽器ごとの演奏を披露した。感極まって涙ぐむ団員の姿も見られた。

演奏会実行会議長の安倍啓貴さん(地球3年)は例年よりソロやパートごとの演奏が多く、それぞれの楽器の個性や魅力を伝えることができた。引退する3年

生にとっては集大成の場となったが、多くの人に聞いてもらえ、充実したものになった」と話した。(山田優芽、12面に関連写真)

### 初の修了研究展

#### デザイン学P

「デザイン学学位プログラム博士前期課程修了研究展」が1月7〜13日、総合研究棟Dで開かれた。学位プログラム制は2020年度に導入され、同展の開催は初めて。同学位プログラムの所属する学生17人の論文10本、作品7点が展示された。7日にはオンラインでの研究発表会も行われ、約130人が視聴した。

会場には、論文内容をまとめたポスターや作品が並べられ、多くの人が興味を持って見学した。デザインP前期2年)は、大型の「散歩促進ロボット Tech Tech」を出展した。高齢者の閉じこもりを防ぐため、全長37センチの大きさの大型ロボットが「今、暇?」や「一緒に今からお出かけしませんか?」など散歩を促す言葉を話す。実際に散歩する際には、声掛けや歩数記録なども行う。ロボット製作は筑波大人間系と茨城大工学部の共同プロジェクトで、櫻村さんがその中心を担った。

櫻村さんは「コロナ禍でプロジェクトメンバーと会えず、被験者もなかなか集まらなかった。それでも、被験者からは、実際に使いたいとの声が寄せられ、うれしかった。改善を重ねて実用化した」と話す。

指導教員の内山俊明准教授

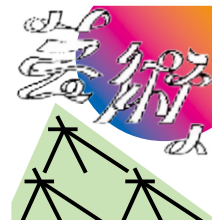
吹奏楽団定期演奏会 会場からやまぬ拍手

筑波大吹奏楽団の第86回定期演奏会が昨年12月12日にノバホール(つくば市吾妻)で開催された。演奏会としてはクラシック曲の第1部、

「悔のない一日をおくる」という歌詞を同じ旋律で歌う。息継ぎのタイミングまでぴったりとそろった4層の歌声が

敵かな印象を与えた。冒頭は四つのパート全てが「悔のない一日をおくる」という歌詞を同じ旋律で歌う。息継ぎのタイミングまでぴったりとそろった4層の歌声が

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)



### 筑波大混声合唱団

筑波大混声合唱団の第46回定期演奏会が昨年12月5日、ノバホール(つくば市吾妻)で開かれた。前年はコロナ禍で中止され、開催は3年ぶり。会場には約300人の観客が集まり、三つの合唱組曲が届けられた。

第一部で披露されたのは「あるさまわる」。生き

思いを「言葉と音楽」にのせて

前のごとができず、悔し

「けふはえびのように悲しい」「からだじゅうが悲しいのだ」などの歌詞に深刻で重たい響きを持たせるため、語頭を強く鋭く発音することを心がけたという。

5曲目の「あるさまわる」は、悔いのない一日を送ることを簡単に描き、それを歌った曲。杉原さんらが「コロナ禍を経験したからこそ、この曲を届

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)



「私の一本」

「私の一本」

「私の一本」



冬空に姿見えざる鳥たちの生活があり南天の紅

花も紅葉もなく常緑樹だけが青々としている頃、道端に鮮やかな赤い実をつけた南天がよく目立つ。手入れの行き届いた民家の庭に植えられている南天は大きな房にざらざらと実っていて豪華だが、大学周辺で見つけた野生の南天の木は低く、小さな房を一つだけつけていた。よく見ると実が一粒ずつむしり取られた跡があり、寒空の下で生活する鳥たちの気配を感じた。

(廣間菜月)比較文化学類3年、写真も)

## 『午後の網目』 マヤ・デレン監督

デレンの「午後の網目(1943年)」である。なお、この映画は私の人生に特に大きな影響を与えていない。映画の概略を説明する。

道端で花を拾った女A1が家に帰ると、電話の受話器が外れていて、レコードがかかっている。誰かが家に入ったようである。不審に思いつつ、A1はリビングのソファで寝てしまう。カメラがリビングから窓にパンすると、A1と外見上同一の女A2が、顔が鏡になっている喪服の女を追いかけた後、A1と同じ家に帰る。玄関の扉を開けるとA1の帰宅時には机の上にあったナイフが、女性監督マヤ・



太刀川弘和 教授 (災害・地域精神医学)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

「心ときめきするもの」は軽快なリズムが特徴だ。「ここがここ」というフレーズがテンポよく繰り返され、音楽に参加した。会場の盛り上がり冷めないまま演奏会は幕を閉じた。(小栗あおい)社会学類2年、写真も)

退職教員5人に聞く

教育者・研究者 人生の軌跡



総合大学として多種多様な教員がそろった筑波大学。今年もまた教育者として、研究者として活躍してきた多くの教員が定年退職を迎える。5人の教授にこれまでの軌跡を聞いた。(及川千翔) 人文学類、大橋翔和、天野隼太、寺尾優汰、比較文化学類、中山友萌香、生物学類

宗教を多面的に理解

専門は比較宗教学。宗教を社会的な側面と他面的な側面から比較することで、多面的な理解を深めることを目指してきた。

社会的側面とは、宗教が影響を及ぼす社会、政治、経済などとの関係のことだ。一方、他面的側面とは、シャーマニズムや神秘主義のように、個人の宗教体験に基づいたものを指す。

出身は鹿児島県山口永良部島。医師を目指して東京大理科2類に入学したが、同類から医学部に進学可能な人数はわずか、「入学後すぐに挫折した」という。次に希望した文学部も

成績が足りず、「人生終わらなから山林で余生を過ごす」と農学部林学科に進んだ。学部時代は新興宗教に興味を持ち、信者以外にも開放された集会があれば参加して話を聞いた。参加した宗教の多くは明治末に形成された大本教の流れをくむもので、その思想に親和性を感じたという。

研究人生を変えた恩師との出会い



津城 寛文 教授 (人文学部・比較宗教学)

大学院では宗教学を専攻し、他面的な側面を持つ大本教の鎮魂儀礼と民俗学者折口信夫が唱える鎮魂論の比較研究を行った。大学院修了後は、日本学術振興会の研究員を務めた。転機は1990年。大学

し、城西国際大のポストを紹介してくれた。折口について研究を生かし、民俗学の日本の「深層文化」に関する本の執筆を勧められた。「深層文化」とは、日(現米)ジョージタウン大名誉教授)の著作「近代世界の公共宗教」の翻訳を持ちかけてくれた。「宗教社会学」に関する授業も担当していた。井門先生は自分の研究人生を変えてくれた。感謝しても足りない」と話す。

学際性に魅せられ 筑波大へ

専門とする教育臨床学は、教育現場を見つめ、教師や保護者が抱える悩みや子供が学校に適應する上で問題解決を支援する学問だ。自ら学校現場に赴き、カウンセリングも行ってきた。



庄司 一子 教授 (人間系・教育臨床学)

この経験から、授業は「人々が育休を取得しやすく学生と共に考える姿勢を今も大切にしている。筑波大の教職を目指す学生は、学校生活で困難を抱えた経験が比較的少ない。体罰や不登校などの実態を研究や調査で明らかにし、その困難さについて、学生自身に気づいてほしい」と訴える。

学校現場の問題解決を支援

退職後も何らかの形で学校での支援を続ける希望を持つ。「筑波大では、たくさんの出会いに恵まれ、優秀な学生と出会い、多くの学びを得た。学生の皆さんには、一生の宝となる優れた教員や素晴らしい仲間との出会いを重ね、学び、自分を磨いてもらいたい」と話す。

母親の姿が研究の原点

個人農家や農業法人の事業経営について研究する農業経営学が専門だ。その中でも、担い手の動向や、機械化や農業法人化など農業形態の変化と事業内容の関係などについて研究してきた。

箱根山の外輪山のふもとにある神奈川県小田原市の農山村で育った。実家はミカン農家で、母親は1日中農業に従事していた。当時の日本は高度経済成長期で、都市部では専業主婦が増えていた。母親の姿を見て農村の貧しさを感じ、農業の経営の実態に興味を持ったという。

大学では、北海道大農学農家1戸当たりの平均水田面積は元々1.5倍ほどだった。1970年代ごろから出た筑波大の教員から声がかかり、2000年に筑波大の教員になった。大学での分野は多岐にわたる。また、研究室に所属した社会人大学院生の中には、博士号や修士号を取得した農業法人の経営者も多かった。自身もこれに触発され、雇用型の農業法人における従業員の人材育成についての研究なども行った。



納口 りり子 教授 (工学部・農業経済学)

退職後は、現在務める一般社団法人日本農機連携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。

中立な立場で 真実を追求

専門は法医学。これまで解剖した検死体は1万5千を超えた。DNA鑑定は、自身の手で新しい時代を切り開いていくかもしれないという夢があったという。



本田 克也 教授 (医学医療系・法医学)

「革新的な方法は、思い込みを避け、常識にとらわれない思考から生まれる」と研究人生を振り返る。今後は、2018年に自身が設立したNPO法人「法医学鑑定センター」で研究を続け、「社会的正義の実現のために中立で正確な鑑定を続けていく。

農業経営の変遷見つめて

退職後は、現在務める一般社団法人日本農機連携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。

DNA鑑定の可能性広げる

退職後は、現在務める一般社団法人日本農機連携機構のアグリビジネス研究会座長や科研費による他大との共同研究を続ける一方、ゆっくりに過ごす時間も持たたいという。



# Hello! 先端研究



大津 厳生准教授

米国の複数の企業が昨年、民間人の宇宙飛行に成功した。また、実業家の前澤友作氏ら2人が日本の民間人として初めて国際宇宙ステーション(ISS)に滞在し、2021年は宇宙旅行元年と呼ばれる。誰もが宇宙に行ける日が、少しずつ近づいている。だが、宇宙長期滞在は生き物の体にさまざまな不具合を生じさせる。無重力環境や宇宙を飛び交

## 数々のアスリートを支える

アスリートのけが予防や治療方法を研究するスポーツ医学が専門。アスリートの健康管理やトレーニングを指導するアスレチックトレーナー(AT)としても多くのプロ選手らをサポートしてきた。

北海道出身。大学まで陸上競技に打ち込んだ。専門は100メートルハードルで、高校時代は14秒70と国内ランキング10位(当時)の記録を出す実力者だった。だが、筑波大体育専門学群2年生の春に膝を剥離骨折。痛みを感じながらも練習を続けたために状態が悪化し、選手を引退した。「選手としてもっと高みを目指せたのでは」と悔

## 白木 仁 教授 (体育系・スポーツ医学)



「腰割り」をする白木教授

しきが今もある。後輩たちには、たった一度のけがで競技人生を諦めた自分のようになつてほしくない。攻め、骨格や筋肉の形状、そんな思いから、トレーナーを目指すようになった。大学院で応用解剖学を専攻し、骨格や筋肉の形状、それらの組織の形成過程などを学んだ。また、四足歩行動物とヒトの骨格を比較し、ヒトの体で痛みが生じる理由や対処法を研究した。例えば、ヒトの背骨は



「腰割り」に関する書籍

## 研究に基づく

1991年に筑波大の講義に兼任し、96年に日本スポーツ協会のATの資格を取得した。心がけているのは、研究でトレーニングの効果を検証し、ATとしての選手への助言に説得力を持たせること。「分野横断的に研究できる筑波大にいたからこそできた」と

## トレーニング実践

腰割りは足を大きく開き、腰を垂直に下ろす動きで、相撲で四股を踏む際の基本形だ。「股関節周りの筋力を高め、可動域を大きくする働きがある。けがの減少や腰痛の軽減などに効果がある」と話す。

体重100kgを超す力士が素早くしなやかに動ける秘密は股関節にあると考え、スクワットをする時と四股を踏む時の筋電図などによる測定を行った。四股のほうが膝にかかる負担が少なく、また臀部の筋肉をより使っていることが判明し、腰割りには大臀筋と臀部の筋肉を同時に鍛えるさまざまな効果があることを突き止めた。今後は筑波大の非常勤講師を務めながら、トレーナー人材の育成にも力を入れているという。

「大学はさまざまな経歴を持つ教員・学生が集まる場所。感謝や礼儀を忘れず」と、学生たちにエールを送った。

例えは再開発事業や市のバスサービス改善、公園や道路でのイベント開催、空き店舗再生などを地域の方と協力して行っています。

## 宇宙滞在が招く酸化ストレス

放射線の影響が考えられ、特に肝臓については、線維化や脂肪肝などの障害が引き起こされることが分かっていた。これらの現象は生体の酸化ストレスが原因である可能性が指摘されていたが、具体的な仕組みは明らかにしていなかった。大津厳生准教授(生環)は、体内にあるさまざまな硫黄化合物を網羅的に解析することで、明らかにできる。硫黄化合物が酸化還元反応の中心を担っているからだ。今回の研究にあたり、大津准教授は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)からISSで飼育した2種類のマウスを譲り受け

## 健康な宇宙生活の手がかりに

系は、バイオテクノロジー企業ユークレナ(東京都港区)の協力を得て、宇宙で飼育されたマウスの肝臓組織に含まれる硫黄化合物を解析した。生体内の酸化還元状態

物の代謝に関する遺伝子の発現が増加していた。これは、酸化ストレスにより減少する硫黄化合物を再供給するためのと考えられた。大津准教授は、研究のポイントとして特に、宇宙飼育マウスでエルゴチオニンという硫黄化合物が地上生活時の半分に減少していたことを挙げる。哺乳類の体内では合成できず、一部のキノコなどから微量を摂取する

**宇宙で生活**

**地球上で生活**

サルファインデックス解析  
宇宙マウスでは

- ・肝臓への酸化ストレス増加
- ・肝臓の抗酸化物質減少
- ・酸化ストレス抵抗性の遺伝子発現増加

(取材を基に作成)

## 手紙

「ウォーカーカプシティー」に関する手紙

「ウォーカーカプシティー(Walkable City)」直訳すると「歩ける街」。更には、車中心に作られてきた都市を、人中心、徒歩・公共交通中心に転換して、ライフスタイル自体も歩く暮らしに転換した街のことです。

ニューヨーク、ポルトランド、パリ、バルセロナ、ストックホルムなど世界の多くの都市は、行き過ぎたモータリゼーション(自動車の普及)を反省し、数十年前からウォーカーカプシティーに舵を切り、日本は後発組になっています。3年前、私はフランスの地方都市を旅行し、「なんて日本は遅れているんだ」と衝撃を受けました。人々が便利な公共交通を使い、歩いて暮らし、日本でもよく見るシャッター

街もありません。私は現在、国土交通省から栃木県小山市に出向し、ウォーカーカプシティーづくりを目指して仕事をしていますが、その志の源流は大学時代までさかのぼります。社会学類3年生時の2006年、土浦市を対象にした都市計画マスタープラン策定実習があり、現地調査で衝撃を受けました。土浦駅周辺のシャッター街、大型店の撤退(当時は丸井がありましたが)、空き店舗増加、交通渋滞、バス路線撤退などモータリゼーションが引き起こす問題に直面しました。現在では交通事故や環境問題は深刻化し、歩かない生活による健康問題も顕在化してきています。

共交通にシフトさせるにはどうすればよいか。新卒で就職したJR東日本では、駅中心のまちづくり。その後転職した国土交通省では、法律や補助

## 実践の経験、今に生きる

小山市都市整備部長 浅見知秀さん



した。実習での発表資料を見返すと、当時の提案内容を小山市で実行している、うれしいような、進歩のないような複雑な気持ちになります。

「小山は車社会」で、苦勞することばかりあります。しかし3年継続してこんな声も増えてきました。「車を手放してバス通勤している」「駅前広場を歩行者中心に再整備したい」。協力してくれる人が増える度うれしくなります。

実習の経験が、自分の価値観や仕事観に影響を与えてくれた。大学には授業だけでなく、その後の自分に影響を与える経験がたくさんあると思います。もしも後で気づくことになってもいいかもしれません。大学の生活は人生のどこかでつながって、何かに結びつくはずですよ。(平成19年社会学類卒 写真本人提供)

金を活用して、土浦の支えをしました。現在の小山市では、当時土浦でできなかった問題解決策を実行する仕事をしていきます。あの頃の伏線を回収する日が来るのでは夢にも思いません。

金を活用して、土浦の支えをしました。現在の小山市では、当時土浦でできなかった問題解決策を実行する仕事をしていきます。あの頃の伏線を回収する日が来るのでは夢にも思いません。

金を活用して、土浦の支えをしました。現在の小山市では、当時土浦でできなかった問題解決策を実行する仕事をしていきます。あの頃の伏線を回収する日が来るのでは夢にも思いません。

金を活用して、土浦の支えをしました。現在の小山市では、当時土浦でできなかった問題解決策を実行する仕事をしていきます。あの頃の伏線を回収する日が来るのでは夢にも思いません。

# インカレベスト8で敗退

## 駒澤大戦1点遠く

【浦安市運動公園陸上競技場(千葉県浦安市)で細井真生(人文学類2年、写真も。12面に関連写真)全日本学生選手権(インカレ)が昨年12月8、25日に行われた。筑波大は14日の準々決勝で駒澤大と対戦し、0-1で敗れた。コロナ禍で大会が中止された昨年から、2017年から4大会連続でベスト8にとどまった。駒澤大はその後も勝利を重ね、15年ぶりに大学日本一に輝いた。



と対戦。前半終了間際の44分に角昂志郎(体専1年)が先制点を決め、0-1から登場し、京都産業大で折り返した。その後も

# 阿部 学生タイトル全制覇

## 室内インカレ女子単優勝で



優勝を決めた阿部=全日本学生テニス連盟提供

全日本学生室内テニス選手権(室内インカレ)が昨年12月1-5日に江坂テニスセンター(大阪府吹田市)で行われ、阿部宏美(体専3年)が女子シングルスで初優勝した。阿部は1年時の全日本大学対抗王座決定戦で筑波大を初の団体優勝に導き、2年時には全日本学生選手権(インカレ)のシングルスとダブルス、室内インカレのダブルスのタイトルを獲得。今回のシングルス優勝で、全日本学生タイトルを全て制覇した。

(松村英美)日本語・日本文学文化学類1年、山田優芽

### テニス

阿部は大会の女子シングルスで、準々決勝までの3試合を1セットも落とさずに快勝。4日の準決勝では、神鳥舞(早稲田大)と対戦した。

阿部は積極的に攻め、第1セットを6-1で制したが、第2セットは3-6で奪われた。勝負の第3セットでは、ネット際に落とさ

# 森海渡 今季からプロ入団

## 「大きな決断だった」



森海渡

【一面参照】筑波大学蹴球部のエースストライカーとしてチームをけん引してきた森海渡(体専3年)が、今シーズンからのJ1柏レイソル加入を決断した。3年生で蹴球部を退部し、プロ選手としての挑戦を前倒した理由や今後の目標を聞いた。

### サッカー

早期のプロ加入をいつから考えていたか

「選抜の1つとして1年時から頭にはあったが、昨シーズンは始めることに現実的に考えた。まずは筑波で結果を残してからという思いが、(角田)涼太朗君が昨年の前期で横浜F・マリノスに入団した時には、「いつかは自分も」と思っていた。

なぜ卒業を待たずに「さみしい」と言っているのか

「同期や先輩の反応は、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

加入を決めたのか  
卒業論文以外の単位は3年間で取れた。早い段階からより高いレベルでプレーすることで、サッカー選手としても成長したいと強く思い、決断した。

大学に入学した理由の一つは、教員免許を取得し、現役引退後の選択肢を広げるため。教職科目の単位も取っていたが、この時期にプロに行くことで教育実習ができ、教員免許も取れなくなる。大きな決断だったが、それ以上にチャレンジしたい気持ちが強かった。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。



所属クラブのユニフォームを着て写真撮影に応じる選手ら(昨年12月27日、大会会館特別会議室で)

勝利に貢献し、小学生時代から尊敬する大谷秀和選手(柏レイソル)を超えるような選手になりたい」と話した。

同期や先輩の反応は「さみしい」と言っているのか

「同期や先輩の反応は、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

が、第8ゲームを永田にブレイクされ、そのまま3-6で奪われた。最終セットは、第2、3ゲームをラフゲームで奪つた阿部が主尊権を握って6-0とし、セットカウント2-1で優勝を決めた。

# プロクラブに7選手

## 小井土監督「感謝しかない」

サッカーのプロクラブ入団が内定した筑波大学蹴球部員の合同記者会見が昨年12月27日、大会会館で開かれた。会見には、山原怜音(体専4年) II J1清水エスパルス、加藤匠人(同4年)、森海渡(同3年) II 共にJ1柏レイソル、井川空(同4年) II J1北海道コンサドーレ札幌、小林幹(同4年) II アルビレックス新潟シンガポール(新潟S)の内定選手5人と、昨年7月にJ1横浜F・マリノスに加入した角田涼太朗(同4年)が登場した。また、今年1月5日にはキーパーとして活躍した櫻庭立樹(同4年)のJ3FC大阪加入が発表された。

### サッカー

これで今年度、筑波大からは計7選手がプロ入りと復帰する。

# 柔道

## 米川 初優勝

女子78kg超級

全日本ジュニア柔道体重別選手権が昨年12月18、19日に講道館(東京都文京区)で開かれた。昨年中に満15歳から20歳を迎える選手だけが出場できる大会で、初日の女子78kg超級に出場した米川明穂(体専2年)が初優勝を果たした。



所属クラブのユニフォームを着て写真撮影に応じる選手ら(昨年12月27日、大会会館特別会議室で)

勝利に貢献し、小学生時代から尊敬する大谷秀和選手(柏レイソル)を超えるような選手になりたい」と話した。



# 黒川 悲願の学生日本一 笠は女子3位入賞



決勝戦でメンに飛び込む黒川(右) = LET'S KENDO 提供

剣道の学生日本一を個人で争う全日本学生選手権と全日本女子学生選手権が昨年12月4日、墨田区総合体育館(東京都墨田区)で開かれ、男子は黒川雄大(体専3年)が優勝した。筑波大勢では2019年(20年は中止)の星野啓太(令和2年度体育専門学群卒)に続く優勝だ。女子は笠日向子(体専1年)が3位入賞、海津ゆきえ(同2年)がベスト8に入った。筑波大勢がベスト4以上になるのは4年ぶり。  
(福澤航介II生物資源学類2年)

## 剣道 全日本学生選手権

男子  
筑波大からは、黒川、近本太郎(同4年)、重黒木祐介(同3年)の3選手が出場。近本は3回戦、重黒木は4回戦で敗退した。黒川は準決勝までの7試合を、積極的な試合運びで勝ち上がった。決勝戦では、木村恵都(鹿屋体育大)と対戦。試合開始約1分、お互いに間合いを詰めたところで、黒川が思い切りのいいメンを放ち、一本になった。取り返したい木村に果敢に攻められるも、黒川はうまく受けて、優勝を決めた。鍋山隆弘(男子監督、体育系・准教授)は、「黒川は大会序盤から順調だった。積極的に一本を取りに行く姿勢が優勝につながったのではないかと振り返った。黒川は、「優勝できてうれ

## 11年ぶりの優勝 新人戦で関東制す

関東女子学生新人戦が昨年12月8日、東京武道館(東京都足立区)で開かれた。各大学の1、2年生が5人でチームを組む団体戦で、筑波大は2010年以来11年ぶりに優勝した。4試合を、それぞれ先鋒から大将まで負けなしの圧倒的な強さで、危なげなく勝ち上がった。準決勝では東洋大と対戦した。先鋒戦で川合芳奈(体専1年)は、相手が止まるところをメンに飛び込み、一本勝ちを収めた。次鋒戦の岩本瑚々(同1年)は、相手方が打った隙を突いてメンを決め、一本負けを喫した。中堅の海津、副将の齋藤とも(同1年)は引き分けに終わり、勝利は大将戦に委ねられた。大将の笠日向子(同1年)は相手のメンをうまくかわし、空いたところにかさずメンを打ち、一本を取った。相手は取り返そうとするも、笠は攻めの姿勢で、落ちていて一本を決めようとした瞬間に、しっかりと決めることができた。と語った。(福澤航介)

## 「良い流れを作れた」

は、相手がメンを打った隙を突いてメンを決め、一本負けを喫した。中堅の海津、副将の齋藤とも(同1年)は引き分けに終わり、勝利は大将戦に委ねられた。大将の笠日向子(同1年)は相手のメンをうまくかわし、空いたところにかさずメンを打ち、一本を取った。相手は取り返そうとするも、笠は攻めの姿勢で、落ちていて一本を決めようとした瞬間に、しっかりと決めることができた。と語った。(福澤航介)

## スポーツ 顔

「勝負所だと集中力が増す。一本でも取られれば筑波大の負けが決まる大一番で、その緊張感を乗り越えていた。中央大の代表はその年の全日本女子選手権覇者だった。昨年9月、団体戦で争う関東女子学生優勝大会の決勝。中央大との対戦は、代表者戦にもつれ込んだ。

学校大会の女子個人戦で3位入賞し、本気で「日本一になりたい」と思うようになった。高校は、中学時代から憧れていた全国屈指の強豪校、中村学園女子高

しても勝たなければと、思ったという。これをきっかけに剣道に対する姿勢が変わった。「競技生活での大きなターニングポイントになった」と振り返る。

て優勝を決め、リベンジを果たした。3年時はコロナ禍で大会が次々に中止になった。「今まで何のために稽古をしていたのか」という喪失感に襲われたが、「大会がなくなった分、後輩の指導をきちんとしなければ」と気持ち切り替えた。剣道部引退後も受験勉強と両立しながら稽古を続けた。

# 山登りの5区 10位相当 福谷「目標通りの結果出せた」

箱根駅伝

筑波大陸上競技部の福谷颯太(体専3年)が1月2、3日の第98回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)に関東学生連合チームII(5区)の一員として出場した。関東学生連合はオープン参加で正式順位はつかないが、福谷は往路5区を区間10位相当の1時間13分01秒で走った。筑波大生の箱根駅伝出場は2020年にチームとして出場して以来2年ぶり。関東学生連合は総合記録11時間0分25秒で、14位相当だった。(細井眞生)

陸上  
筑波大は昨年10月の予選会で13位に終わり、本戦出場を逃した。福谷は個人16位で、関東学生連合に最上位で選出された。福谷が走った5区は「山登り」と呼ばれ、全長20.8キロ、高低差800メートル以上。コースを駆け上がる。初の本戦出場となった福谷は、小田原中継所(神奈川県小田原市)で4区の村上航大(上武大)から14番目でたすきを受け取った。序盤は順調な走りを見せ、7.1キロ地点の大平台



出走前、部員からのメッセージを掲げる福谷 = 陸上競技部提供

と語った。だが、「気持ちが悪く、足が重く、ゴールの芦ノ湖(同)に到着。福谷の記録は5区の中で、1位の青山学院大とは8分09秒差だった。福谷は「1時間13分で走り、区間10位相当に入ることが目標だった。その通りの結果は出せたが、足を痛めていなければもっと良いタイムが出たかもしれない。悔しさも残った。駅伝主将として、筑波大が来年の箱根駅伝に出場できるように、今回の経験を部員にも伝えていきたい」と話した。

また、関東学生連合の往路記録は5時間30分15秒で、1位の青山学院大とは8分09秒差だった。福谷は「1時間13分で走り、区間10位相当に入ることが目標だった。その通りの結果は出せたが、足を痛めていなければもっと良いタイムが出たかもしれない。悔しさも残った。駅伝主将として、筑波大が来年の箱根駅伝に出場できるように、今回の経験を部員にも伝えていきたい」と話した。

「勝負所だと集中力が増す。一本でも取られれば筑波大の負けが決まる大一番で、その緊張感を乗り越えていた。中央大の代表はその年の全日本女子選手権覇者だった。昨年9月、団体戦で争う関東女子学生優勝大会の決勝。中央大との対戦は、代表者戦にもつれ込んだ。

学校大会の女子個人戦で3位入賞し、本気で「日本一になりたい」と思うようになった。高校は、中学時代から憧れていた全国屈指の強豪校、中村学園女子高

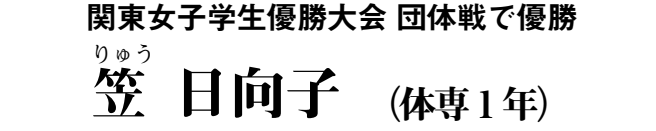
しても勝たなければと、思ったという。これをきっかけに剣道に対する姿勢が変わった。「競技生活での大きなターニングポイントになった」と振り返る。

て優勝を決め、リベンジを果たした。3年時はコロナ禍で大会が次々に中止になった。「今まで何のために稽古をしていたのか」という喪失感に襲われたが、「大会がなくなった分、後輩の指導をきちんとしなければ」と気持ち切り替えた。剣道部引退後も受験勉強と両立しながら稽古を続けた。

今後の目標は全日本女子学生選手権や全日本女子選手権など、主要大会の個人戦優勝だ。「個人で日本一になったことがない。今まで支えてくれた両親や先生、仲間のおかげで、返したい。」(福澤航介II生物資源学類2年写真も)

## 「個人でも日本一に」

1年時の悔しさを胸に、大将として臨んだ2年時夏の玉竜旗剣道大会では、決勝で前年の魁星旗で敗れた守谷高校との対戦。大将戦に勝利した。一緒に戦った先輩たちに申し訳ないと感じたが、「この負けを絶対に忘れるな」という監督の言葉に「次の大会は何と



関東女子学生優勝大会 団体戦で優勝  
笠 日向子 (体専1年)

1年時の悔しさを胸に、大将として臨んだ2年時夏の玉竜旗剣道大会では、決勝で前年の魁星旗で敗れた守谷高校との対戦。大将戦に勝利した。一緒に戦った先輩たちに申し訳ないと感じたが、「この負けを絶対に忘れるな」という監督の言葉に「次の大会は何と

# 留学生らに餅配布

## 日本の正月文化を紹介

留学生と外国人研究者を中心に餅を配布する「振舞餅-Furumai Mochi 2021」が昨年12月21〜24日、チューデントサポートセンターのチューデント・コモンズ(1A棟)で開かれた。日本の正月文化の紹介や異文化交流の促進が狙いで、多くの学生に参加してもらった。キャンパスに来る人が多い秋Bモジュールの試験期間中に開催した。日本人学生を含む約300人が紅白の餅(二)を受け取り、書道体験などを楽しんだ。(大橋翔和・写真も。12面に関連写真)



留学生らに餅を配布する「振舞餅-Furumai Mochi 2021」の様子(12月22日、1A棟)

同センター国際交流支援室と国際局グローバル・コミュニケーションが共催した。餅と一緒に配布された冊子では、門松やおせち料理、羽根つきなどが英語で解説された。会場にはけん玉やま回しなどの正月遊びのコーナーが設けられた他、芸術専門学群の書道領域の学生による季節の書と「筑波大学池坊華道部」による生け花が展示され、日本の正月文化が紹介された。

作りの体験ブースも設けられた。コロナ禍でも留学生が孤立しないよう、今後も感染状況を踏まえ、対面とオンラインの両方でイベントを開催し、支援を日訪れる学生がいたりという好評だった。コロナ禍でも留学生が孤立しないよう、今後も感染状況を踏まえ、対面とオンラインの両方でイベントを開催し、支援を日訪れる学生がいたりという好評だった。

## レジにゲート設置

カスミ筑波大学店

### 業務負担の軽減狙い

スーパーマーケットのカスミ筑波大学店が昨年12月13日、レジゲートを設置された。同店の利用客は必ずこのゲートを通り、決済済みの確認を終えてから退店する。利用客が安心して買い物できるようにすることと従業員のレジ業務の効率化を図ることが狙いだ。決済方法の完全キャッシュレス化なく、先進的な取り組みを進めてきた同店で試験的に導入された。(寺尾優次 写真も)



新設されたレジゲート(1月14日、カスミ筑波大学店)

# 筑波大生 古着店オープン

## 自分の「似合う」見つける場に

筑波大生が経営する古着店「Lily of the valley」が昨年12月3日、つくば駅前商業施設「tonarie Q't」(トナリエ・キュート)にはお吾妻の1階にオープンした。創業を目指す若い世代をつくば市が支援する「チャレンジショップ事業」の一環で、今年2月末まで営業を続ける。代表の岡本萌美さん(社2年)は「お客様が自分に似合うスタイルを見つけたり、普段は着ない服に挑戦したりするお手伝いがしたい」と話している。(山田優芽 写真も)



商品の古着を持つ岡本さん(昨年12月23日、tonarie Q'tで)

この事業は、つくば市の「この花言葉は「幸福の再来」で、着られなくなった服をお客さんに届けて、再び服が幸せになるように」という思いを込めた。約90平方メートルの店内にはジャケットやコートなど、着3000〜6000円、古着約300着が並ぶ。また、アクセサリーやバッグ

なとも置かれており、岡本さんを含め17人の学生スタッフは、服のコーディネートに力を入れている。中心は70〜90年代のブランド物だ。月に2回、スタッフの筑波大生が千葉県や埼玉県の卸業者から買い付けている。岡本さんは、高校生の頃から経営に興味があり、筑波大入学後は学内サークルや東京都での起業の勉強会に参加してきた。また、友人から「服のコーディネートに力を入れてほしい」と声をかけられた。友人から「服のコーディネートに力を入れてほしい」と声をかけられた。

**筑波大生が準優勝**  
大学生による書評合戦「大学ヒアリオバトル」オ

**ヒプリオバトル**  
大学生による書評合戦「大学ヒアリオバトル」オ

**異文化交流で視野を広げ**  
コースを履修して、各コースとも、レクチャー2コマとチュートリアル1コマの計3コマの授業が毎週あります。レクチャーは大人数が参加する講義形式で、基本的に英語で進められます。英語が苦手な方も、事前に準備した課題を事前に読んでおくことで、授業中に集中しやすくなります。

**池田果凛**  
私は英国北部スコットランドのエディンバラで暮らしています。コロナ禍で不安と希望が入り混じる中、留学が始まる前から早くも「早くも留学したい」と思っています。その美しい街並みは歴史があり、世界遺産に登録されています。街の随所に大学の関係施設が点在しています。私はメイソンキャンパスから30分ほどの学生寮に住んでいます。

**エディンバラ大学**  
エディンバラ大学は現在、宗教学、キリスト教史、中世の民衆宗教の3つの学生寮に住んでいます。

**筑波大学 出版会**  
新刊案内  
北米先住民族の宗教と神話の世界  
——歴史と文化交渉の観点から  
木村武史 教授(人社系) 著

本書は、北米先住民族を長年研究してきた著者による、歴史と文化交渉というテーマでまとめられる論考を集めたものだ。神話伝承を歴史と文化交渉の状況において成立したテクストとみなし、伝統宗教を生きた北米先住民族が主体的に語った神話テクストを読み解いていく。イエスス会宣教師と狩猟採集民の間の誤解、「ホビの予言」の歴史的形成過程、カンニバルの怪物ウィンディゴ伝承、蜘蛛や昆虫が登場する神話伝承の考察、また伝統的言語の喪失危機と保存の試みなどを取り上げる。

本日は、北米先住民族を長年研究してきた著者による、歴史と文化交渉というテーマでまとめられる論考を集めたものだ。神話伝承を歴史と文化交渉の状況において成立したテクストとみなし、伝統宗教を生きた北米先住民族が主体的に語った神話テクストを読み解いていく。イエスス会宣教師と狩猟採集民の間の誤解、「ホビの予言」の歴史的形成過程、カンニバルの怪物ウィンディゴ伝承、蜘蛛や昆虫が登場する神話伝承の考察、また伝統的言語の喪失危機と保存の試みなどを取り上げる。

AS5判並製、406頁。1月27日刊行。6050円(税込み)。

### DACセンター 障害に合わせた学習空間設置 国内の大学で初

筑波大のダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACセンター)に、障害学生向けの学習・休憩スペース「アクセシブルスタディルーム(ASルーム)」が設置された。障害学生が持つ感覚過敏などに対応し、部屋の色や光、音を自在に調節できる。国内の大学では初の設置で、昨年8月の運用開始から16人が利用している。(天野隼太、写真も)

ASルームは、DACセンターを合わせて約1万6500人の学生が利用できる。広さは約40平方メートルで、複数人用の共同自習室(第二エリア2A307)と一人用の自習・休憩室(同エリア2A307-1)の二つに分かれている。全国的に、発達障害を持つ学生が増え、筑波大でも、DACセンターに登録している障害学生156人のうち10人が発達・精神障害を抱えていることが多い。こうした感覚過敏は、学習に悪影響を与える場合がある。だが、これまでは耳栓の貸し出しなど対症療法的な対応が中心で、根本的な対策は難しかった。そこで、障害科学を研究する佐々木銀河准教授(入間系)と小山慎一教授(芸術系)らは、2019年にASルームの設置プロジェクトチームを結成した。国内外の事例や、障害学生の意見を取り入れながら設計を進め、昨年7月に完成させた。一人用の自習・休憩室では、学生の多様な感覚に配慮し、照明の色や室内の音楽を、学生の好みに合わせて調整できる。備品にも工夫を凝らした。円筒内の水の中を泡が登っていくバブルチューブや簡易式テント、中心部分を握る羽を弾く回転する



部屋の光の色を調節し、備品の説明をする佐々木准教授(昨年12月27日、2A棟で)

ある。だが、これまでは耳栓の貸し出しなど対症療法的な対応が中心で、根本的な対策は難しかった。そこで、障害科学を研究する佐々木銀河准教授(入間系)と小山慎一教授(芸術系)らは、2019年にASルームの設置プロジェクトチームを結成した。国内外の事例や、障害学生の意見を取り入れながら設計を進め、昨年7月に完成させた。一人用の自習・休憩室では、学生の多様な感覚に配慮し、照明の色や室内の音楽を、学生の好みに合わせて調整できる。備品にも工夫を凝らした。円筒内の水の中を泡が登っていくバブルチューブや簡易式テント、中心部分を握る羽を弾く回転する

間系)と小山慎一教授(芸術系)らは、2019年にASルームの設置プロジェクトチームを結成した。国内外の事例や、障害学生の意見を取り入れながら設計を進め、昨年7月に完成させた。一人用の自習・休憩室では、学生の多様な感覚に配慮し、照明の色や室内の音楽を、学生の好みに合わせて調整できる。備品にも工夫を凝らした。円筒内の水の中を泡が登っていくバブルチューブや簡易式テント、中心部分を握る羽を弾く回転する



#### 解説

石の広場の「芝」は、友人と昼食を取ったり、語り合ったりする学生の憩いの場だ。開学当初、ここには幅50m、落差7mの人工滝を設置する計画があった。松美池など学内の五つの池は、静かな水として、既存の谷津田を利用して造られた。唯一動かな水として計画されたのが、滝だった。施設部によると、コスト面



普段は緑が映える「芝」も雪化粧することがある(1月7日、第二エリアで)

しばじゅう「芝充」(名)主に石の広場の芝生で過ごすこと。また、過ごす人のこと。「リア充」と同じアクセシブル。芝生で写真を撮ったりランチを取ったりして楽しむこと。から実現せず、今後設置する予定もないという。もし、滝が設置されていたら、今年には、学内に入構できない中、「芝」で友人とのんびり過ごすのも難しい。「芝」は筑波大の今を映す鏡。初々しい一年生の集団や、さまざまな言語で交流する留学生はあまり見られなくなった。だが、本当は学生も「芝充」したいはずだ。人的交流の場として、「芝」が再びにぎわうことを願いたい。(西村大祐 人文文学部4年、写真も) 〓おわり

# 「つくば茶寮」発売 筑波大とコート・ダジュール 共同開発



つくば茶寮が店頭で並び(1月12日、コート・ダジュール本店で)

茨城三大銘茶の一つ「猿島茶」の抹茶ペーストを生地と餡に練り込んだまんじゅう「つくば茶寮」を、つくば市の洋菓子店「コート・ダジュール」(本店・つくば市東新井)が昨年12月に発売した。筑波大と共同開発する二期「今プロジェクト」の第一弾。茶葉を含むカテキンに体への脂肪蓄積抑制効果があることを突き止めた筑波大の研究成果を生かして商品化した。プロジェクトを企画した事業開発推進室の担当者は「つくばは土産として定着させたい。つくば市や筑波大の紹介になる」としている。

つくば茶寮は白餡ペーストのまんじゅうで、柔らかくしっとりとした食感で、ほのかに香る抹茶のほろ苦さが特徴だ。同プロジェクトは、つくば市産の抹茶ペーストを開発し、土産になる菓子の開発を通して、筑波大の教育・研究成果の広報や地域おこしにつなげることが目的だ。

健康イノベーション開発研究センター長の坂本和一准教授(生環系)と猿島茶を栽培する野口熊太郎茶園(茨城県境町)の共同研究で、茶葉が含むカテキン類には体への脂肪蓄積抑制効果があり、その中でもエピガロカテキンガレート(EGCG)が高い効果を



つくばアクチュアルシミュレーション同好会(T.A.S.C.)はボードゲームやアナログゲームを楽しむサークルだ。文化系サークル館1階にある10畳ほどの部室の棚には、サイコロゲームやカードを使った言葉遊びゲームなど、100種類を超すゲームが積み上げられていた。

メンバーが持ち寄ったゲームをプレイし、面白い取組で、その数は増え続けているという。現在の会員は36人。活動は水曜と土曜の週2回で、毎回10人



カードゲーム「コヨーテ」を楽しむメンバー(1月12日、文化系サークル館で)

前後のメンバーが集まる。1月中旬、記者が取材に訪れると、瞬く間に10種類ほどのゲームが卓上に並び、メンバーが楽しんでいる。カードは36枚あり、計値を順番に推理して正確性を競う。あえて大きい数字を言って場を惑わせるプレイヤーがいたり、全てのカードの数字を2倍にする特殊カードがあったりと、単純なようで奥が深いゲームだ。勝負が決まると「いや、られた」「なるほど」などと、メンバーたちは互いの戦略について、楽しげに話し始めた。

ここ数年、人気が高まっているのが、テーブルトーク・ロールプレイングゲーム(TRPG)だ。架空の物語世界を舞台に、参加者が謎を解いたり、冒険をしたりする。参加者はゲームの進行役の指示に従い、割り振られたキャラクターを演じて、他の参加者と会話を重ねていく。テレビゲームのRPGとの大きな違いは、人間が全ての処理を行うことだ。やり終えるまで2〜6時間程度かかるが、石上直直さん(物理1年)は「プレイヤー次第で物語の内容や結末が毎回変わる。物語を能動的に広げられる没入感や、みつきになると魅力を感じる。また、平野玲弥さん(比文1年)は、キャラクターの姿を借りて会話している」と、参加者の思わぬ性格や考え方に触れられる瞬間があつて面白い」と言う。

ゲームを楽しむ憩いの場に並べられた。このゲームの楽しさは、「『有名なほこれ』など、メンバーが思い思いに話している。『初心者向けで遊ばす』という声も聞かれる。この日の参加者は9人だったが、2人からプレイできる。プレイヤーは山札からカードを1枚取り、マイナス10からプラス20までの数字が書かれている。プレイヤーは、全員の手札に書かれた数字の合計を、やり終えるまで2〜

同会は対面でアナログゲームを実施することにこだわってきたが、ここ2年ほどは、オンラインでの活動を強いられた。「テーブルゲームは相手の表情や身振りから次の行動を予測することが楽しい。オンラインだとその魅力が半減する」と天野さん。コロナ禍の収束を願う気持ちは、他のサークルと変わらない。(太田碧 第2類1年、写真も)

# Who's Who?

「つくコレ」グランプリ

## 旗手 有菜 さん (国際4年)



グランプリのたすきをかけてほほ笑む旗手さん=本人提供

男女平等な社会を実現したい。その思いを実現する第一歩として、「ジェンダー問題に もっと関心を持ちませんか」と訴え、昨年11月の「TSUKUBA COLLEGE」2021でグランプリに輝いた。「自分に自信がついた」と振り返る。将来は国連職員になる夢を描く。

ジェンダー問題への関心を持つようになったのは大学入学後だ。2年時の授業で、途上国には男女差別が根深く残っていることを知った。同時期に、国連開発計画(UNDP)の日本人女性職員の話や、世界規模で、男女

が共に生きるすい社会づくりを進められる仕事だ」と思ったという。つくコレへの参加を決めたのは、出場者として「ジェンダー問題」を発信することで、より多くの人がジェンダー問題に触れるきっかけを作りたいと思ったからだ。つくコレの活動期間中には、「ジェンダーセッション」と銘打ったライブ配信を5回行った。自身が立ち上げたジェンダー問題の研究サークルから各回1人をゲストに招き、「性教育の歴史」や「人工中絶の倫理問題」など、それぞれのゲストが得意とする話を引き出した。視聴者からは「ジェンダー問題に興味を湧き調へ始めた」などの声が寄せられ、目的が達成できたと感じた。

## 男女平等の実現訴え

### 将来は国連職員を目指す

「世界に行く前に日本の現状を知りたい」という理由から、大学では日本の育児環境について研究している。「核家族化や男らしさ、女らしさというしがらみ、女性の低賃金などにより、女性が仕事と家事・育児を両立できない状況が生じている」と分析。ベビシッター制度の導入や男性の育児休暇取得率向上などが必要だと指摘する。

現在、国連ユースボランティア・プログラム事業の筑波大代表を務めている。同事業では、協定を結ぶ日本の大学が、学生をインターン生として海外に派遣する。任期は5カ月で、筑波大では、応募者から選ばれた1人が参加する。大学2年時から毎年応募してきたが、今年度初めて代表に選ばれた。

「カザフスタン」は塩害による農作物の被害が深刻な地域。本来なら、塩害の実態調査や地域住民へのインタビューをする予定だったが、現地に行かないと分からないことも多く、悔しい。だが、オンラインでもFAOのプロジェクトや業務内容、忙しいなど国連職員の仕事を知ることができていたと語る。

国連職員の応募には修士号が必要だが、大学院に進学し、女性の育児や出産環境、男女という固定観念によるしがらみの打破について研究を続ける。長い道のりだが、夢に向かって歩き続ける。

次号は、4月5日(火)発行予定です

## 大学入学共通テスト実施



感染対策の徹底された会場で受験生は試験を受ける(1月15日、3A棟で) = 車谷郁実撮影

2面へ

## 吹奏楽団 定期演奏会



リハーサルでジングルベルを演奏する吹奏楽団の団員ら(昨年12月12日、ノバホールで) = 山田優芽撮影

5面へ

## サッカー 全日本大学選手権



先制点を挙げた角(中央)に駆け寄る選手ら(昨年12月11日、京都産業大戦で) = 細井真生撮影

8面へ

## 振舞餅



正月遊びのコーナーを見学する留学生(昨年12月22日、1A棟で) = 大橋翔和撮影

10面へ

学内総合

学芸

スポーツ

学生生活

## 編集後記

ます(2面)▼大学では授業がオンライン化されたこともあり、人間関係の幅が狭まり、課外活動もままなりません。そんな状況下で本紙には何が出来るだろうかと考えます▼今号ではさまざまな筑波大生を取り上げました。トップアスリートとして各競技を引っ張ってきた筑波大生(1、3、9面)、古着店を始めた筑波大生(10面)、つくば土産の開発に関わった筑波大生(11面)……▼紹介した筑波大生の数だけ、思いや生き方がありました。本紙では、これからもそうした筑波大生の姿を読者に届けたいと思います。(編集長・車谷郁実) 社会学類2年

【編集・発行】筑波大学新聞編集委員会

▼委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学

▼副委員長 関瑞穂(学生部長) 文学部

▼委員 逸村裕(図書館情報メディア系・教授) 図書館情報学

▼委員 清水(体育系・教授) スポーツ社会学

▼委員 菅純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学

【筑波大学新聞編集部】

▼編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション

▼編集長 車谷郁実(社会学類2年) 社会学

▼副編集長 川千翔(人文学類2年)

▼天野隼太(比較文化学類2年) ほか編集部員18人

発行所 筑波大学

印刷 ヒラマ写真製版